

※普通展示は収蔵品を定期的に入れ替えながら展示しています。
※一部の作品は会期中に展示替えがあります。

	4 2021 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	1 2022 January	2 February	3 March
本館 展示室 1 (浮世絵)	普通展示 雪月花 -花- 3/16 → 4/18	普通展示 橋口五葉 4/20 → 5/23	普通展示 HOKUSAI★ MANGA 5/25 → 6/27	普通展示 小林清親 -光線画の時代 6/29 → 8/1	普通展示 井上安治 -光線画の継承者 8/3 → 9/5	普通展示 開館25周年記念 館蔵名品選 I -ありがとう、 浦上敏朗さん。 9/14 → 10/17	普通展示 開館25周年記念 館蔵名品選 II -ありがとう、 浦上敏朗さん。 10/19 → 11/23	普通展示 忠臣蔵 11/27 → 12/26	普通展示 吉田博の 風景版画 1/2 → 30	普通展示 明治の美人画 楊州周延 I 2/1 → 3/6	普通展示 明治の美人画 楊州周延 II 3/15 → 4/10	
展示室 2 (東洋陶磁)	普通展示 やきものの装飾 刻む・彫る・印す・割る 3/16 → 5/23			普通展示 やきものの装飾 彩色 5/25 → 9/5						普通展示 やきものの装飾 描画 11/27 → 4/10		
茶室	普通展示 和田 的 CONTRAST -光と陰- 4/3 → 3/27 茶室では、様々な分野で活躍するアーティストによって自由な発想で制作されたインスタレーションを発表します。											
展示室 3・4・5・6	第44回 山口伝統 工芸展 4/10 → 18	特別展示 ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ -日本を夢見たヨーロッパ工芸 4/24 → 6/20		特別展示 光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界 7/3 → 9/5		特別展示 海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～ 9/18 → 11/23						
陶芸館 展示室 7 (陶芸)	普通展示 オブジェ -陶造形の潜勢力IV 3/16 → 3/6											
展示室 8 (陶芸・工芸)	普通展示 十三代 三輪休雪の茶陶 3/16 → 6/27		普通展示 涼を誘うかたち 6/29 → 9/5		普通展示 山口県の伝統工芸 I 9/14 → 12/12		普通展示 山口県の伝統工芸 II 12/14 → 5/15					普通展示 陶 -生命の讃歌III 3/15 → 10/10

※展覧会の会期・内容は変更する場合があります。詳細は展覧会チラシ、ホームページをご覧ください。

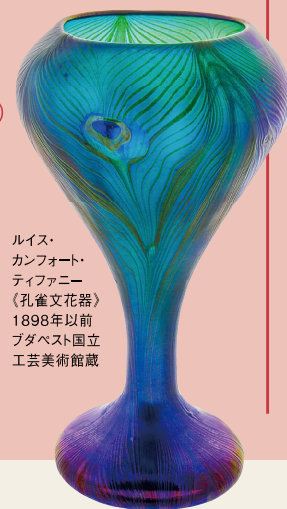
展覧会のご紹介

ブダペスト国立工芸美術館名品展
ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ
-日本を夢見たヨーロッパ工芸

4月24日(土) → 6月20日(日)

[休館日] 4月26日(月)、5月10日(月)、17日(月)、24日(月)、31日(月)、6月14日(月)

19世紀後半、日本の美術・工芸品がヨーロッパに流入し、日本の文物に人々が熱狂する「ジャポニスム」現象が起こりました。本展は、ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、日本美術を西洋がどのように解釈したかについての歴史を辿るものです。ガレ、ドーム兄弟、ティファニーやハンガリーを代表するジョルナイ陶磁器製造所などによる貴重な作品群約200点をご紹介します。



ルイス・カンフォート・ティファニー
《孔雀文花器》
1898年以前
ブダペスト国立
工芸美術館蔵

光ミュージアム所蔵
美を競う
肉筆浮世絵の世界

7月3日(土) → 9月5日(日)

[休館日] 7月12日(月)、19日(月)、26日(月)、
8月2日(月)、10日(火)、23日(月)、30日(月)

浮世絵は木版による作品が大半を占めますが、絵師が直接筆をとり、絹や紙などに描いた肉筆浮世絵にも、近年高い関心が寄せられています。本展では、これまで大々的に公開されることがなかった光ミュージアム所蔵の肉筆浮世絵の名品を、初めて一挙にご紹介します。



溪斎英泉《立ち美人》(部分)
文政年間(1818-30) 光ミュージアム蔵

海を渡った古伊万里
～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～

9月18日(土) → 11月23日(火・祝)

[休館日] 9月21日(火)、27日(月)、10月11日(月)、18日(月)、
25日(月)、11月8日(月)、15日(月)、22日(月)

オーストリア、ウィーン近郊にたたずむ古城ロースドルフ城には、古伊万里を中心とした陶磁器コレクションが多数所蔵されてきましたが、第二次世界大戦の悲劇により大半が破壊されてしまいました。本展では、国内にある古伊万里の名品とともに、破壊された陶片を含むロースドルフ城の陶磁器コレクションを海外初公開し、波乱にとんだその全貌を紹介します。



《色絵唐獅子牡丹文亀甲透彫瓶》(部分修復) 有田窯
1700-1730年代 オーストリア・ロースドルフ城蔵
撮影:大屋孝雄